大阪１２区ＳＮＤ市民連合　立憲野党候補者懇談会

野党は共闘し自公政権に代わる新しい政治を

衆院大阪１２区ＳＮＤ市民連合は７月２４日、「立憲野党候補者第１回懇談会」を寝屋川市内で開催、候補者を含めて１９名が参加しました。

１２区市民連合は今年４月、衆院１２区内での立候補予定者４名(北川晋平･自民、藤田文武･維新、宇都宮ゆうこ・立憲、松尾まさのり・共産)に、コロナ対策、オリンピック開催、憲法、平和、環境、カジノなど７項目の公開質問状を送りました。結果、松尾・宇都宮両氏から回答が寄せられました。

この回答を受けて、松尾・宇都宮両氏と政党関係者、市民連合呼びかけ人をはじめ、労働組合、新婦人など大衆団体が一堂に会しての懇談会を開催しました。

冒頭、葦田正幸市民連合事務局長から、２０１５年７月の安保法制廃止をめざす運動の中で１２区市民連合を結成、３０００万署名、１２区リレー宣伝、学習決起集会、市民と野党の共闘１００人アピール運動、ＳＮＤ市民連合ニュース発行などを行い、市民連合賛同者は 3400 人(四條畷 40０、寝屋川 2000、大東 1000)を超えています。と報告

続いて、松尾・宇都宮候補から、①野党共闘について、②コロナ・オリンピック開催について、③大阪維新政治について、などの考え方について意見表明が行われました。

両予定候補者の意見表明を受けて、参加者自己紹介を兼ねた質疑･応答･懇談が行われました。

○政権交代の軸は市民と野党の共闘だ、それぞれの地域から声を挙げよう。
○命を大切にする政治に変えるためには野党共闘しかない。
○４年前真白りょう名で出馬予定が直前に神奈川で立候補、１２区で選挙がしたかった。
○広島補選と同じ女性候補、ジェンダー・子育て要求で無党派層へのアプローチ。
○働く者の声は最賃・非正規と深刻。自公ダメの声、今回はチャンス。野党共闘で候補者早く決めてほしい。政策のツメ合わせが必要。労働政策も必要。
○大阪は維新があり東京とは違う、立憲と共産党での政権構想･政策のすり合わせを早く。12 区の要求を引っ提げて候補者統一の実現を。
○安倍から菅へ、国民投票法案が通過する等、平和の問題が心配。平和が一番。
○文化が社会的弱者に、オリジナリティーが必要。ジェンダー感覚も必要。
○生産性でなく、人として大事にされる政治を、どちらか一人に早く絞るべき。

最後に、葦田正幸事務局長が「一日も早く統一候補を、そのために政策の一致をめざし、これからも懇談を続けていきたい」とまとめ報告を行ないました。